

## 第三者評価報告書



第三者評価実施結果について本書の通り報告いたします。

報告日：〇〇年〇月〇日

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

印

## 【運営法人情報】

施設名称	△△幼稚園
運営法人名称	学校法人△△学園
施設種別	幼稚園
代表者氏名	理事長 機構 一郎
施設所在地	〒000-0000 東京都千代田区〇〇3 丁目 3-3
電話番号	03-0000-0000
ホームページアドレス	https://www.***.com/
メールアドレス	info@***-yochien.com
事業開始年月日	平成〇年〇月〇日
園児数	55 人
学級と人数	3 クラス 55 人
保育者数・職員数	10 人

## 【理念・基本方針】

- ・みほとけさまに手を合わせ、いのちを慈しむ強く優しい心を育みます。
- ・主体的な遊びを通して好奇心に寄り添い、一人ひとりの才能を育みます。
- ・特色ある教育を通して、創造する力、表現する力、聴く力を育みます。

## 【評価機関情報】

評価機関名	(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	20〇〇年〇月〇日～〇月〇日
評価報告書作成者	ER〇〇〇〇〇

## 【評価者】

教育学等を専門とする大学教授等	〇人
他園の教員等、幼児教育関係者	〇人
小学校教員、指導主事等学校の教育活動に造詣の深い者	〇人
その他	〇人
計	〇人

## 【総評】

### ●総合評価

公開保育では、外部の目を通して自園の「あたりまえ」の実践が大きな魅力であると認められ、保育者たちは確かな自信を得た。しかし、本園にとってさらに大きな転機となったのはその後のプロセスである。外部からのフィードバックを一方的に受け取るだけでなく、園長と現場保育者が「園としてどうしていくべきか」という思いをていねいに出しあったことで、保育の実践が「与えられたもの」から「自分たちでつくるもの」へと深く落とし込まれていった。

この意識の変化を土台として、チームがより良くなるという共通の目的のもと、これまで伏せられてきた方針への迷いや違和感をあえて前面に出し、前進するための原動力へと変えていく場が生まれた。方針の実践への落とし込みをめぐり、園長と保育者たちが自分たちだけで深く対話を重ね、「一つひとつの実践のねらい」を問い直すことや会議の仕組みについて検討するなど、園の自律的な歩みが展開されていた。こうした主体的な姿こそが、「一人ひとりが頑張っていた職場から、チームになれた」という確かな手応えへと繋がったのではないだろうか。自ら「対話のサイクル」を回し始めた本園が、これからもこの営みを成長の糧に変え、子どもをまんなかに据えた質の高い保育を探究し続けられることを大いに期待したい。

### ●特に評価が高い点、園の良さ等

遊びの自由度や何にでも挑戦できる環境／園庭環境の豊かさ／子どもの声を聴き主体性を引き出す保育の姿勢／子どもの声が自然に出ている／保育者のあたたかさ・笑顔／子どもの姿を見取る力／見通しをもった声かけ／互いに親身に相談し合える前向きなチームワーク

### ●課題、改善を求められる点

保育者の思いを伝え合う場づくり／方針理解の深まりと面白さの自覚／対話を通じた解決への手応え／自由と規律のバランスや一斉活動のあり方への葛藤／理念と実践をつなぐための対話促進の仕組みづくり／活動ごとのねらい／時間の使い方

### ●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

評価を受ける中で、まずは当園が日常的に取り組んでいる保育や環境構成の工夫が、第三者からも魅力的であると認められたことに安堵している。また、保育の中で生じる迷いや疑問を気軽に話し合える風土づくりは、これからも大切にしていきたい。

今回、保育者が挙げた「悩み」や「問い」を整理した結果、昔からの方針と現在目指す保育の方向性にずれがあり、さらに自由度の高い保育ゆえに保育者間で保育観が統一されていなかったことが課題の背景にあると分かった。しかし、これらは「園の方針」「保育のねらい」「子ども理解」を軸に、納得するまで対話を重ねることで解決できる可能性が示された。

現在は放課後の業務を見直し、日々の実践を共有し振り返るための時間を確保している。

今後も、行事だけでなく日常の保育そのものを、トップリーダーを含めた全員で問い直しながら、対話を中心に据えた時間の使い方を大切に、質の高い保育の探究を続けていきたい。